

美方郡のアカネクスジトラカミキリ (2)

永幡嘉之

1993年早春に行ったアカネクスジトラカミキリ *Cylloclytus monticollisus* の分布調査の結果を本誌前号(永幡, 1993)に報告した。その後, 5月上旬まで調査を続けたが, その採集記録と得られた若干の知見について少し書いてみたい。

<採集記録> (すべて1993年, 採集者は筆者である)

兵庫県美方郡温泉町千谷	7 exs., 1 - V
" " " 肥前畑	2 exs., 3 - V
	17exs., 3 ~ 10 - V 羽脱
村岡町小城	4 exs., 3 - V
美方町茅野	1 ex., 30 - IV
" 新屋	3 exs., 25 - IV
	9 exs., 1 ~ 14 - V 羽脱
" 備	5 exs., 25 - IV

食性について

大部分の産地ではエゾエノキの枯れ枝を食しているが, 前号で触れたようにエノキからも得ている。エノキから成虫を割り出した産地は, 温泉町熊谷大熊・千谷, 美方町茅野の3か所であるが, このうち熊谷大熊, 茅野では付近にエゾエノキが見られなかった。千谷でも, 最も近いエゾエノキまでは少し離れている。熊谷大熊ではエノキに高密度で食入していたが, 千谷と茅野では枯枝はあっても僅かに小型の成虫を1頭ずつを得たのみであった。

村岡町長板・大笹・作山, 温泉町多子, 浜坂町観音山・城山・大滝などで同じようにエノキを割っても, 幼虫の食痕さえ認められなかった。特に長板では, エノキの枝が豊富に落ちていたがそれには見られず, エゾエノキの土に埋もれた1本の古い枝から成虫を発見している。温泉町千谷でも, エゾエノキからはまともに見出された。以上のような事例から, 本種はエノキも食するが, エゾエノキに対する嗜好性が極めて強いことが窺えた。

越冬中の状況について

秋に羽化した成虫は、長期間蛹室内にとどまって春に脱出するが、3月に枯枝を割っていると、蛹室全体が水浸しになっているものが高率で見られた。特に、太い枝の下面に多い。そのような水浸しの成虫は最初は動かないが、乾かしてやるとどれもが蘇生して動き出す。呼吸の停止している期間に水が染み込むのであろうが、これには雪の影響が大きいと考えられる。そして、自然状態で枝の外に脱出できるのかどうかは疑問である。

また、白い菌類が蛹室内に広がっている例も見られる。多くは壁と体の一部分に付着している程度だが、時には蛹室全体を覆っている場合もある。やはり成虫はどれも死んではいないが、程度の差はあれどれも身動きできないので、脱出はできないものと思われる。

ハチの1種に寄生されているものも見られるが、ハチの成虫はまだ採集できていない。

出現期について

4月30日、村岡町板仕野ではすでに成虫の脱出孔が見られた。5月1日から3日にかけて、温泉町肥前畑、千谷、村岡町小城では、脱出孔は空けながらも中にとどまって、外の様子を窺っている個体が多く見られた。また、そうでない個体も材の表面近くまで脱出孔を掘り進めていた。野外への脱出は、気象の変化、特に低温に対応するため極めて慎重に行われるようである。同時期に出現するキンケトラカミキリでも、脱出孔を空けたまま外を窺う個体を観察している。

越冬は稀に蛹でも行われるようで、1993年3月13日に温泉町花口のエゾエノキ材中より採集した蛹から数日後に本種が羽化した。

また、成虫の活動期には発生地を訪れることができなかった。

成虫の変異について

大きさに関しては個体変異に富むが、上翅の斑紋は比較的安定している。異常型として、温泉町海上で写真のような個体を採集している。なお、同じ枯枝から10頭以上採集したが、他には同じような個体は見られなかった。

一般に珍しいとされている本種だが、但馬では調査を行えば海岸部を除きほとんどの地域から発見することができた。これからもさらに綿密な分布調査を行う

とともに、野外での成虫の活動習性の観察にも力を入れていきたい。なお、岡山県の渡辺昭彦氏からは種々のご助言を頂いた。記して御礼申し上げる。



14-III-1993 温泉町海上産

*永幡（1993）で誤植があったので、訂正する。村岡町長坂→長板

参考文献

永幡嘉之（1993）美方郡のアカネキスジトラカミキリ（1），IRATSUME17:74.